

第648回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2022年11月度 ——

◇ 開催日

2022年11月21日(月)

◇ 議題

<テレビ番組>

「バラエティのB(タイムスリップグルメ)」

(放送日：4月20日(水))

◇ その他

九州朝日放送株式会社

第648回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2022年11月21日(月)午後3時25分～4時35分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 7名

副委員長	石井靖子
委員	中山裕二
委員	藤村まこと
委員	丸石伸一
委員	田川真司
委員	上野恵梨奈
委員	山根久資

欠席委員数 1名（意見等は事前に提出）

委員長	石橋和幸
-----	------

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	和氣靖
執行役員 総合編成局長	木附ゆかり
執行役員 報道情報局長	柴田高宏
総合編成局 番組戦略部長	川崎浩司
総合編成局 番組戦略部長（プロデューサー）	下妻宏平
ケイ・ビー・シー映像（プロデューサー）	江良和也
番組審議会事務局（視聴者・広報室）	松永俊郎

4. 議題

- (1) テレビ番組 「バラエティのB (タイムスリップグルメ)」
放送日：4月20日(水)
- (2) 11月・12月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (3) 10月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (4) その他

5. 議事の概要

委員の意見(概要)

委員からは、

- 37年前のグルメ本に掲載された飲食店が今も営業を続けているか確認するという企画は、アイデアとしてとても面白い。「バラエティのB」の他の企画にも関心が湧いた。
- 有名な「ひょうたん寿司」で「カニクリームコロッケ」が人気ということに驚いた。うどん店から取材を断られる場面はリアルで自然体な様子が良かった。
- 「天神ビッグバン」に伴い閉店する「新生飯店」の密着取材は、企画の主旨とは少し離れていたが、とても良いドラマだった。客との交流や店主の涙に感動した。色んな角度から撮影したカメラワークは、あたかも映画のワンシーンを見ているかのようだった。
- 「新生飯店」の場面では、音楽や客のコメントがとても効果的に使われていた。寂しい気持ちになる閉店の話題なのに、どんどん引き込まれていくような選曲が内容を盛り上げていた。
- テンポの良い展開で地元グルメが紹介されており、肩の力を抜いて楽しめた。高級店ではなく大衆店を中心に紹介する構成にも好感が持てた。「ローカルに特化」という番組コンセプトに沿う内容だった。
- 昔の「ドォーモ」を思い出す庶民的な内容の一方、現代のライフスタイルに合わせてSNSも活用するなど制作サイドの工夫が伝わった。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 12弾(天神編)だけでは全体的なトーンがつかみづらかった。第1弾から11弾をダイジェストで紹介すればもっと企画が分かりやすくなったのではないかな。
- 「スマホ抜き」「ごはん抜き」というルール設定の意味がよく分からなかった。罰ゲームのようなイメージを抱いた。ニュアンスを変えて、わくわくするように演出した方が良いのではないかな。
- グルメ本に掲載されていた695店舗のうち何店舗が今も存在しているのか気になった。長く続く店の料理や値段の比較もあれば、秘訣やこだわりを知ることができて、より面白くなったのではないかな。

- 「天神ビッグバン」で変わる町並みに「寂しい」と感じる人も多いと聞く。店舗の立ち退きや移動を迫られた人たちにも目を向け取材すべきだと感じた。
- （新生飯店の場面は）感動的な内容ではあったが、番組がターゲットにする若い視聴層にとって興味ある内容なのかと疑問に感じた。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- 「バラエティのB」は去年3月にスタートした。より幅広い世代の視聴者に見てもらおうべく地元（ローカル）の「人」や「場所」を大事な要素としている。
- 番組の主な視聴者の行動パターンを調べると「食べ歩き」をする人が多いことが分かり、高級店ではなく大衆店を扱った。
- 従来のグルメ企画ではニューオープンの店や話題のメニューを紹介することが多いが、番組独自の目線で「30年以上前に地元で発売されたグルメ本」を要素として企画を進めた。
- （通常は取材に応じない）「新生飯店」にスタッフが通いつめ、閉店の様子を取材する許可を得た。「若い視聴者の興味ある内容か？」とのご意見もあったが「笑い」だけがバラエティーではないと考えている。
- 「グルメ本に掲載されていた695店舗の何店舗が今も存在しているのか」は、初めは掲出していたが、「新生飯店」閉店を扱う12弾（天神編）ではトーンが違うと判断した。店主や客などの表情を描くことを重視した。
- 「ごはん抜き」というルールに罰ゲーム的な意味はなく、一日歩いてお腹を空かせて食べるご飯が一番おいしいという思いでの設定だった。「スマホ抜き」のルールは今回の12弾（天神編）に限って言えばあまり意味がなかった。
- 「スマホ抜き」などのルールの意味や細かな説明は放送回ごとに見直している。一方で「過去と現在の料理や値段の比較」などは今後の参考にしたい。
- 「タイムスリップグルメ」は、天神、中洲、博多など様々なエリアでバランスを見ながらぐるぐる巡るようなイメージで、引き続き継続して調査・取材を進めていきたい。
- メインターゲットは「U49」。編集の方法やプロモーションでもっと若い世代にも見られるように改善を進めたい。
- 天神の景色が変わり「寂しい」と感じる人は大勢いるが、本作ではあまり寂しくならないように描いた。同様の声は例えば「シリタカ！」などで伝えるようにしている。

などの説明をしました。